

医療最前線

多職種からなる摂食嚥下チームとは

言語聴覚士の役割



言語聴覚士 船木 咲希

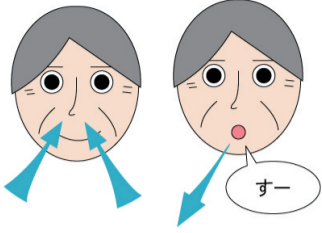
言語聴覚士は、リハビリテーションに関わる専門職の一つです。言語聴覚士がリハビリの対象としているのは、主にコミュニケーションの障害です。その内容は多岐にわたります。

「言語聴覚士とは」言語聴覚士は、リハビリテーションに関わる専門職の一つです。言語聴覚士がリハビリの対象としているのは、主にコミュニケーションの障害です。その内容は多岐にわたります。

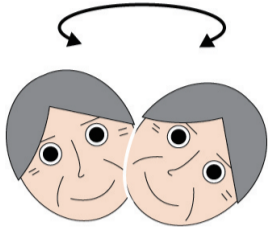
前回は摂食・嚥下障害看護認定看護師の役割を紹介しました。今回は、言語聴覚士の役割を紹介いたします。言語聴覚士は、リハビリテーションに関わる専門職の一つです。言語聴覚士がリハビリの対象としているのは、主にコミュニケーションの障害です。その内容は多岐にわたります。

【図1】簡単にできる嚥下体操

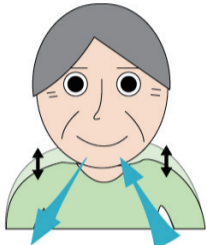
①口すぼめ深呼吸 唇をしっかりと閉じて鼻から息を吸う →「すー」と言いながら口から息を吐く



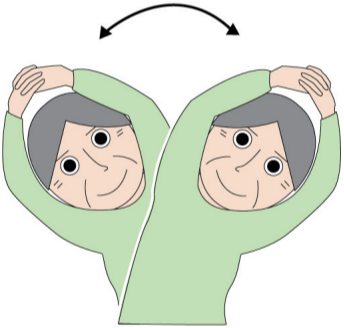
②首回し ゆっくりと首を回す



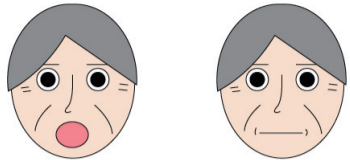
③肩の上下運動 息を吸いながら肩を引き上げ、スッと力を抜くように息を吐きながら肩を下げる



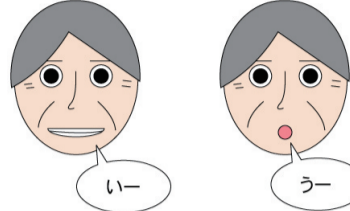
④胸郭(胸をとりまく骨格)の運動 両手を頭上で組んで身体を左右に曲げる



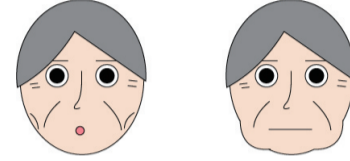
⑤唇の運動 口の開け閉めを大きく繰り返す



「いー」と「うー」の口の動きを大きく繰り返す



⑥頬の運動 頬を膨らませたり引っ込めたりする



⑦舌の運動 舌を前後に出し入れする ※出す際は下唇を越えるほどしっかりと出し、引っ込める際は顎を閉じないようにする



⑧発音訓練 「パ、タ、カ」とは繰り返し繰り返す



⑨口すぼめ深呼吸 ①と同じ

（梶川病院）広島市西区天満町 言語聴覚士 船木 咲希

適切な食事内容を詳しく知っているのは管理栄養士など、それぞれの専門範囲において詳しい情報を把握していただきます。それらの情報を統合・共有することで、リハビリを実施しやすい時間の選定、好きな食べ物を使ったリハビリの実施、飲み込みに支障を来さない栄養補助食品の選定、食事に必要な口腔内の運動の可否、食前食後の口腔内の状況確認、歯科治療の必要性など、再び安全に口から食べるために必要な情報収集や活動をスムーズに行うことができます。